

会議記録

会議名称		第12期（令和4・5年度）第6回杉並区男女共同参画推進区民懇談会
日時		令和6年3月27日（水） 午後6時30分～8時00分
会場		杉並区役所 中棟6階第4会議室
出席者	委員	10名 村松委員、有馬委員、吉橋委員、半田委員、渡辺委員、杉田委員、森川委員、石川委員、近藤委員、久水委員 ※欠席者4名
	事務局	6名 区民生活部長、男女共同参画担当課長、男女共同・犯罪被害者支援係長、担当者3名
傍聴者		2名
配布資料		資料1 令和6年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査について(案) 資料2 令和6年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査 質問(案)(区民調査) 資料3 令和6年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査 質問(案)(事業所調査) 参考資料1 令和3年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査 調査票(区民調査) 参考資料2 令和3年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査 調査票(事業所調査) 参考資料3 ゆう Can70号
会議次第		1 開会 2 議題 令和6年度 男女共同参画に関する意識と生活実態調査の実施について 3 連絡事項等 4 閉会
<p>会議要旨</p> <p>1 開会</p> <p>○事務局 男女共同参画推進区民懇談会（以下「区民懇談会」）を公開とすること、会議録を作成し区公式ホームページで公開するため録音することについて説明。</p> <p>司会の選出</p> <p>○事務局 区民懇談会運営要綱第4条2項「懇談会の司会、進行については、懇談内容ごとに適したものを選出する」との規定に基づき、学識経験者選出の有馬委員に進行を依頼することとし、各委員が了承。</p> <p>3 議題 令和6年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査の実施について</p> <p>○事務局 令和6年度男女共同参画に関する意識と生活実態調査（以下「実態調査」）の実施について、資料1～3に基づき、男女共同参画担当課長から説明（省略）。</p> <p>○進行役 資料2「家庭生活と家族観について」（P2～P3）について、ご意見を伺います。</p> <p>○委員 問1「あなたのご家庭では、次の①～⑤の事柄について、役割分担はどのようになっていますか」（以下「問1」）の選択肢1「該当する人がいない・あてはまらない」について、この表現では独居の人が回答すべき箇所が不明確であると考えます。「独居であるため自分で行っている」等、わかりやすい選択肢を設けるべきと考えます。</p> <p>問2「結婚、出産、子育てに対する①～⑤のそれぞれについて、あなたの意識に最も近いものをお答えください」（以下「問2」）について、設問を削除する予定との説明がありましたが、その根拠を教えてください。</p>		

- 事務局 問1の「該当する人がいない・あてはまらない」は、③「介護」や④「育児」を行っていない方がいることを想定して設けた選択肢となります。ご意見を踏まえ、独居の方の回答を想定した表現を検討します。
- 問2について、令和3年度調査の結果では、「①未婚の女性が子どもを産み育てるのも、一つの生き方である」の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は86.1%、「②結婚しても子どもは持たない」というのも一つの考え方である」の割合は92.7%となっております。このことから、社会に①及び②のような考え方が定着したと考えており、設問を削除することとしております。
- 委員 3ページの「事実婚」に関する設問について、事実婚を選択している事情は「名字が変わると不都合があるため、事実婚を選択している」「経済的な不安があり、結婚に踏み切れない」等、多様です。自由記述欄を設ける等、より深く事実婚の実態を把握するための工夫が必要と考えます。
- 委員 問4について、事実婚の夫婦を「様々な『事情』により婚姻の届出をしていないカップル」と表記していますが、「事情」というと「やむを得ず事実婚を選択している」ような印象をうけます。積極的な理由で事実婚を選択しているカップルも多くいるはずであり、「理由」と表記する方が適切と考えます。また、法的に結婚しているカップルの表記について、問4では「正式に結婚している夫婦」、問5では「法律婚のカップル」と表記が異なっています。「法的に結婚している」に統一すると、表現が明確となりよいと考えます。
- 事務局 事実婚を選択する理由が多岐にわたることは承知しておりますが、今回の調査では事実婚に対する考え方について、広く区民の認識を把握することを目的としているため、事実婚当事者の個別の事情について深掘りはいたしません。事実婚の実態については、別途事実婚当事者へ困り事等を伺う場を設ける予定です。設問の表現方法については、ご意見を踏まえ修正を検討いたします。
- 進行役 問2について、事務局案では設問全体を削除することとなっておりますが、「③希望する者には夫婦別姓を認めてもよい」（以下「問2③」）は、未だに様々な意見があるところであり、継続して伺うべきと考えます。この点について、他にご意見等あれば伺います。
- 委員 問2③について、私もこの設問は継続して伺うべきと考えます。
- フェイスシートの3「あなたは結婚していますか。」の設問について、結婚の定義がわかりづらいと思います。「法律婚をしていますか」等、明確な表現に修正すべきと考えます。
- 問1の選択肢について、「主に女性」「主に男性」など、性別ごとに選択肢を区分していますが、フェイスシートの1「あなたの性別をお答えください」の設問では、「どちらとはいえない」の選択肢があります。性別ごとに区分するのではなく、「自分」か「相手」で伺うべきと考えます。
- 事務局 フェイスシートの3について、よりわかりやすい表現を検討いたします。
- 問1の選択肢について、国及び都の表記方法や調査集計の都合等を考慮しつつ、検討いたします。
- 委員 問2③について、「選択的夫婦別姓についてどう思いますか」等、独立した設問を設けることも選択肢の一つと考えます。
- 進行役 資料2「就業状況について」（P4～P5）について、ご意見があれば伺います。
- 委員 問8「女性の働き方について、あなたが望ましいと思うものはどれですか」（以下「問8」）について、設問を削除する予定との説明がありましたが、区政を進めていく上で、区民の意識を把握すること重要であり、継続して伺うべきだと思います。
- 委員 問8について、区民の考え方を定点観測する側面から、私も継続して伺うべきと考えます。また、問8と問8-1で「子ども（子供）」の表記が異なっているため、統一が必要と考えます。
- 事務局 問8について、定点的な変化を見ることも重要ですが、変化を把握することで具体的な施策検討につなげることが難しい、女性が回答しづらい設問となっていることが懸念される等の観点から、総合的に考え削除する判断をいたしました。
- 委員 具体的な施策検討に活かすための設問だけでなく、区民の意識・考え方を把握する設問も必要と考えます。男女共同参画を推進することがよいことだと思わない方もいるのが現状です。男女共同参画を推進する上で根底となる区民の意識・考え方を把握し、その上で具体的な施策を検討すべきではないでしょうか。

- 事務局 全体のバランス等を考慮しつつ、改めて検討いたします。
- 進行役 資料2「男女平等意識」(P10)について、ご意見があれば伺います。
- 委員 問18「今の日本では、次のような場で男性と女性が平等になっていると思いますか」の選択肢が、「男性優位」「女性優位」ではなく、「平等になっている」「平等になっていない」に修正されています。男性優位の結果となることが多い設問であり、基本的にはこの変更の問題はないと思います。しかし、「④学校教育の場で」については、一抹の不安が残ると考えます。令和3年度調査を見ると、「学校教育の場」については、「女性優位」の回答も多くみられ、他と傾向が違っています。区民の意識を正確に把握することができるのか少し心配です。
- 進行役 「性的マイノリティについて」(P11～P12)について、ご意見があれば伺います。
- 委員 問23「あなたは、性的マイノリティの人権を守るため、どのような施策が必要だと思いますか」(以下「問23」)の選択肢10「公的な場所での性的マイノリティに対する偏見や憎悪、差別意識をあおる差別的言動を禁止すること」(以下「問23の選択肢10」)について、他の選択肢よりも表現に圧迫感を感じます。平易な表現を検討すべきと考えます。
- 進行役 「公的な場所で性的マイノリティを貶めるような言動を禁止すること」「公的な場所で性的マイノリティに対する嫌悪感をあおるような言動を禁止すること」などの表現はいかがでしょうか。
- 事務局 性的マイノリティの差別的言動については、具体的な定義づけがなされておられません。「貶める言動」「嫌悪感をあおるような言動」では、公的な場所で禁止する言動の範囲を示すことが難しいと考え、このような表現としております。しかし、他の選択肢と比べ硬い文言となっているのも事実ですので、平易な表現を検討したいと思います。
- 委員 問23の選択肢10について、このような偏見や差別的言動は、性的マイノリティだけではなく、男性、女性に対しても起こり得ることです。そのため、性別に起因する偏見等についても、選択肢に追加すべきと考えます。
- 事務局 性的マイノリティの人権に関する設問であるため、主語は「性的マイノリティ」としています。ご意見は今後の参考といたします。
- 委員 問23の選択肢2「交流イベントの開催」はどのような事業を想定しているのでしょうか。
- 事務局 当事者と非当事者の相互理解を目的とした交流イベントの実施を想定しています。ご質問をうけ、選択肢の表現をよりわかりやすく修正したいと思います。
- 委員 問23の選択肢4「セミナーや研修会等の開催」(以下「問23の選択肢4」)について、中小企業や学校現場は自力でのセミナー実施が難しいと考えます。『職場や教育現場に対する』セミナーや研修会の開催等に選択肢を修正する、又は設問を追加していただくと、より現実味のある設問となると考えます。
- 進行役 問23の選択肢4について、セミナーや研修の対象者は誰を想定しているのか教えてください。
- 事務局 区民の方を対象とした事業を想定しています。対象者が明確になるよう、表現の修正を検討いたします。
- 進行役 資料2「杉並区における取組等について」(P13～P14)について、ご意見があれば伺います。
- 委員 問25「男女共同参画を推進するために、男女平等推進センターが、今後、力を入れていく必要があると思うものはどれですか。」(以下「問25」)の選択肢4「性的マイノリティ当事者が安心して過ごすことができる居場所づくり」について、表現が漠然としており、どのような事業なのかわかりづらいです。
- 問26「あなたは、防災分野で男女平等の視点を生かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。」(以下「問26」)の選択肢4「震災救援所等の役員を男女のバランスをよく配置する」について、「役員」のバランスという具体的な何を示すのかわかりづらく、表現の再考が必要と考えます。
- 事務局 問25の選択肢4「性的マイノリティが安心して過ごすことができる居場所づくり」については、LGBTユースの方が集まる場をつくること等を想定しています。よりわかりやすい表現への修正を検討いたします。
- 問26の選択肢4は、震災救援所のトップに女性を据えることについて、区民の考え方を伺うことを目的とした設問となります。「震災救援所等の『会長』『副会長』等の役員を男女のバランスをよく配置する」等、よりわかりやすい表現への修正を検討いたします。

○委員	問 25 の選択肢 9 に「相談事業のセンターでの実施」とありますが、男女平等推進センターは立地が悪く、センターで相談を実施することが適切であるのか疑問です。区役所で実施している方が利便性がよいのではないかと考えています。
	問 26 の選択肢 6 「避難所設備に女性の意見を反映させる」は「避難所運営」とする方が適切だと考えます。未だに「炊き出しを行うのは女性」等の考えが残っている現状があります。設備を整えることも重要ですが、それを含めた運営の問題と考えます。
○委員	問 25 について、「学校や事業所での教育実施の支援」の旨の選択肢を追加していただきたいです。
	問 26 について、防災分野で男女平等の視点を生かすためには、女性にも「権限」があることが重要と考えます。「権限」の文言が入った選択肢を追加するとよいと考えます。
○事務局	「権限」があるということは、「権限」のある役職についていることだと考えます
○進行役	トップに女性が必要との趣旨のご意見として、参考とさせていただきます。
○委員	資料 3 「育児介護支援制度について」(P5～P10) について、ご意見があれば伺います。
○進行役	9 ページに「次世代育成支援対策推進法改正」及び「女性活躍推進法の改正」について説明が記載されていますが、これらの法律を知らない事業者も多くいることが予想されます。事業所への啓発のため、より詳細に記載すべきと考えます。
○事務局	事業所への啓発につなげるため、区が実施している事業所向けの取組について、認知度や利用状況等を伺う設問があるとよいと考えます。
○委員	区では、子育て優良事業者表彰、産業振興センターでの相談事業等の取組を実施しております。設問全体の分量等を考慮しつつ、可能な範囲で設問の追加を検討いたします。
○進行役	区民調査では、「男女共同参画社会を進めるために区に望むことはなんですか」との設問がありますが、事業所調査ではそのような設問がないため、追加していただきたいと考えます。
○委員	資料 3 「職場のハラスメントについて」(P13～P14) についてご意見があれば伺います。
○進行役	問 18 「各ハラスメントに対する現状について、どのように認識していますか。」について、選択肢が「取り組んでいる」の文言となっています。設問は、「現状についての『認識』」を伺っているため、「取り組んでいる」の選択肢は適切ではないと考えます。
○委員	資料 3 「性的マイノリティの配慮について」(P15～P16) について、ご意見があれば伺います。
○事務局	問 20 「パートナーシップ制度がどのような制度かご存じでしたか。」について、『杉並区』パートナーシップ制度はご存じでしたか」に修正すべきと考えます。
○委員	杉並区のパートナーシップ制度の認知度だけでなく、東京都のパートナーシップ制度の認知度も含めて把握するため、このような設問としております。ご意見を踏まえ、正確に意図が伝わるよう修正したいと思います。
○事務局	調査の回答率向上のためには、調査目的を詳しく記載することが重要と考えます。調査実施時に、回答依頼文の文言をご検討いただきたいと思います。
○委員	また、令和 3 年度の事業所調査をみると、調査の回答者を「人事労務担当者」に限定していますが、中小企業等の小規模の事業所では、担当が明確に決まっていなことも予想されます。表現の工夫が必要と考えます。
○事務局	調査の回収率向上に資するため、調査実施時に表現を検討したいと思います。
○委員	資料 2 の問 19 の選択肢 1 の語尾が「配慮する」となっていますが、他の選択肢との整合性を考慮すると、この文言は不要と考えます。
○事務局	資料 3 の問 3 の選択肢 6 について、「女性社員向け」の文言は不要と考えます。ご意見を踏まえ、修正を検討いたします。
3 連絡事項等	
○事務局	次回の区民懇談会のスケジュール等について説明（省略）
4 閉会	